

第4回 立川市多文化共生推進委員会 会議録（要旨）

■開催日時 令和6年1月16日（火） 午後7時～午後8時30分

■開催場所 立川市役所 2階 208会議室

■出席者 <委員>細江委員長、木下副委員長、猿渡委員、森田委員、李委員
<事務局>比留間市民協働課長、早野多文化共生係長

■傍聴者 1名

■次第

1. 開会

2. 議題

- (1) 第4期立川市多文化共生推進委員会報告書について
- (2) 第5次多文化共生推進プランに向けて
 - ・第5次多文化共生推進プランの策定方針について
 - ・在住外国人アンケート調査について
- (3) その他

■配布資料

- 1. 第4期立川市多文化共生推進委員会報告書（未定稿）
- 2. 立川市の外国人の状況について
- 3. 立川市第5次多文化共生推進プランの策定方針について
- 4. 在住外国人アンケート調査について

■会議内容（要旨）

1. 開 会

委員長より、会議の成立、会議の公開について説明

2. 議 題

（1）第4期立川市多文化共生推進委員会報告書について

<事務局>

○資料1「第4期立川市多文化共生推進委員会報告書（未定稿）」について説明
前回までの意見を反映して作成。「検証・評価」と「今後の課題」に対するご意見を伺いたい。

<委員長>

「立川市第4次多文化共生推進プラン」について、施策の柱ごとに意見を伺う。

<事務局>

「1. 外国人市民のコミュニケーション支援」について、成果指標の説明
日本語教室の受講者数は、コロナ禍で減少しており、令和5年度は増加しているが目標値には到達しない見込みである。

<委員>

- ・「今後、外国人が増加していく中で、日本語教室の会場の確保が課題である」とあるが、物理的な会場の確保よりも、今後は、初・中級者を優先する等、対象者を絞っていくということの方が優先だと思う。
- ・図書館で「外国語の絵本について地区館の巡回展示を開始した」とあるが、学校関係でも有効な使い方を模索したらよいのではないか。
- ・「子ども日本語教室は、学校との連携が課題である」とありますが、高校進学の際に、特に学校との連携が大事である。高校は、入った後が問題で、日本語の支援がないところだとドロップアウトしてしまう率が非常に高いと聞いている。中学校の先生方にそういう実情をわかってもらうということが課題だと思う。
- ・まんがばーくの絵本を子ども日本語教室で使用する際、持ち出しを許可してほしい。

<事務局>

「2. 外国人市民の生活支援」について、成果指標の説明
多言語で提供できる資料件数は、福祉や保健の部署から翻訳依頼された行政文書やパンフレットの数字で評価している。

<委員>

- ・年金や医療などの情報は、多言語に翻訳したチラシを配布するだけでは理解するのが難しい。
- ・立川市だけでは難しいので、東京都のリソースをうまく使って、医療等について外国人が持っているニーズや不安に応える機会を模索したらよいのではないかと。
- ・日本の医療は縦割りで外国人はどの科にかかれば良いか理解できない。わからない場合、仲間に相談してしまう。医療機関に来るまでのアプローチがあると良い。
- ・子どもが急病になった際に、東京都の夜間の電話相談が役にたったので、電話で相談できるのは良いと思う。
- ・医療通訳をしたときは、事前の準備をして対応した。それでも、普段使わない専門用語やどのように訳すかわからない言葉等があった。町田市の国際交流協会では、必ず複数人で対応するという話を聞いた。

<事務局>

- 「3. 多文化共生の地域づくり」について、成果指標の説明
- 「多文化共生事業への参加者数」は、コロナ禍で減少していたが、ふれあい祭等のイベントが再開されたことで増加する見込みである。
- 「外国人にとって暮らしやすいまちであると感じている市民の割合」は、令和2年度以降、調査項目から削除されたため、統計なし。

<委員>

特に意見なし

<事務局>

- 「4. 多文化共生の推進体制の整備」について、成果指標の説明
- 「やさしい日本語でチラシや申請書を作成している部局の数」は、やさしい日本語でチラシや申請書を作成したものや、ホームページで情報発信したものをカウントしている。平成31年度以降の職員研修は、やさしい日本語をテーマに実施しており、少しずつ市内でも取り組みが広まってきている。

<委員>

- ・ボランティアの不足などが課題となっている中、関係団体が一体となり活動する必要があるのではないかと。

<事務局>

- 「5. 第4次多文化共生推進プラン全体を通して」について
- 第5次プランに向けての課題をまとめるにあたり、参考として、資料2「立川市の外国人の状況について」説明

- ・外国人は、総数・人口に対する割合ともに増加している。
- ・ベトナム、ネパール、インドネシア、ミャンマーの方の割合が増えている。
- ・令和6年1月1日現在、5,464人、2.94%となっている。

<委員>

- ・子どもや若い世代に向けた多文化共生の施策の充実が重要だと思う。これから日本人の人口は減少していき、外国人の方と一緒に地域生活を作っていく必要がある。これからは担う若い世代が、学校の授業等も含めて、他の国や異なる文化を知り、交流する機会を若いときから持っていくということがより大事になる。
- ・不特定多数の外国人に向けて働きかけるだけでなく、企業などで雇用されている外国人などへも働きかけていくとよい。
- ・東南アジアの方がすごく増えていて、これからも増加する見込み。各国の人数の割合は毎年変わるが、その割合に合わせて施策を調整できれば良い。
- ・工場等で働いている方は、色々な民族の方が集まっていて、それぞれ少人数で来ている。企業同士の間をつながりを作る等、横のコミュニケーションを作れるような施策が必要である。
- ・現在、青年会議所（JC）が声をかけてくれてイベントを企画しているが、それぞれの事業所が抱えている悩みなどを率直に意見交換できるような場ができてくればよいのではないか。
- ・前回にあった「災害に対する備えの充実」というのは、能登の地震等もあり、首都直下地震も言われているので、引き続き大事な課題になると思う。
- ・外国ルーツの親に向けて、子育て支援のセクションに働きかけて、学校での悩みなどを意見交換できるような機会を作っても良いのではないか。

（2）第5次多文化共生推進プランに向けて

<事務局>

資料3「立川市第5次多文化共生推進プランの策定方針について」の説明

- ・プランの計画期間：令和7年4月～令和12年3月
- ・令和6年度は、第5次多文化共生推進プラン検討会議を設置する予定
- ・会議は13人以内の委員で構成され、その内、市民委員は日本人4名、外国人4名の計8名以内としており、1月25日号の広報で募集する予定。また、団体推薦の委員を4名以内としており、各団体へ推薦を依頼する。
- ・第5次では、「外国人が住みやすいまちづくりの推進」を中心に、外国人が安心して、安全に長く立川市に住んでもらえるような施策に取り組んでいきたいと考えている。

<委員>

団体推薦の団体はどこか。

<事務局>

たちかわ多文化共生センター、立川交際友好協会、立川・サンバーナディノ姉妹市委員会、立川災害ボランティアネットの4団体へ依頼する。

<事務局>

資料4「在住外国人アンケート調査について」の説明

- ・今年度、第5次多文化共生推進プランの策定に向けて、在住外国人アンケート調査を実施した。アンケートは、1,000人に郵送、30人に面接で実施
- ・回答は、郵送の他にLoGoフォームでも回答できるようにした。
- ・言語は、英語・中国語・ハングルに、ベトナム語の4言語に翻訳した。
- ・返信数は、郵送144件、LoGoフォーム74件、面談30件の合計：248件となり前回より約50件増加している。

<委員>

アンケートは最終的にどのような形になるのか。

<事務局>

- ・クロス集計等をして、3月までに報告書にまとめて、ホームページ等で公開予定
- ・プラン検討会議で参考のためにお渡しする。

<委員>

「ちらしやパンフレットなどがあつたとき、どの言葉で読みますか」という質問で、アンケートの中でやさしい日本語についての解説はあつたのか。

<事務局>

外国人にわかりやすい簡単な日本語という簡単な説明はしている。

<委員>

日本語のレベルがあまり高くない方は、普通の日本語とやさしい日本語は何が違うのかわかりづらい。普通の日本語を選んだ人の方が多いことに影響があるかもしれない。

<委員>

報告書にまとめる時は自由記述も掲載されるのか。

<事務局>

掲載される。30件位の意見が記載されていた。

<委員>

親が困っていることの「教育にかかるお金が高い」というのは、東京都では公立の小・中学校は無償で、高校も今は無償化になっているか、どのように解釈すればよいのか。

<事務局>

具体的には把握していない。塾にかかる費用とか、大学に行くお金かと思う。

<委員>

今、子どもが保育園に通っているが、保育料も安くはない。3歳の後は無料になるが、その前は家庭の収入によってお金がかかっている。

(3) その他

<事務局>

・ウクライナの避難民が市内の都営住宅に入居されたことの報告

<委員>

各委員より、第4期の委員会に参加されての感想やご意見等

- ・フランクに意見交換ができた。色々な角度からの意見が聞けて、参加してよかった。
- ・調査の結果を見ると、個人的に感じていることとほぼ一緒なので、すごく良い調査だと思う。立川市に住んでいる外国人としては、立川市が色々やってくれて、感謝している。
- ・人数がもっと多い方がさらに情報を得られると思う。他にも参加したかったという方がいたのもったいないと思った。